

日本精神障害者リハビリテーション学会（監修）、政策部・渉外部（編集）

英国保健省 精神保健に関するナショナル・サービス・フレームワーク—5年間の経過

近藤 克則（日本福祉大学社会福祉学部）

本書は、イギリス保健省が2004年に発行した「精神保健に関するナショナル・サービス・フレームワーク（National Service Framework；NSF）—5年間の経過」を、日本精神障害者リハビリテーション学会の政策部・渉外部が中心となって翻訳し、日本の読者向けに2本の解説を加えたものである。

NSFとは、ブレア首相が政権について行った医療改革の一つの目玉である。国民に提供する医療の基準を示したもので、理念的な政策目標だけでなく、10年後の数値目標、その実現のための戦略設計と必要な財源確保の計画などを示したものである。がん、冠動脈疾患、高齢者医療などを含む10分野の一つとして、精神保健分野のNSFは1999年に発表された。NSFには、10か年計画が含まれており、本書はその前半5か年の中間評価にあたるものである。

日本でも精神保健分野の改革が繰り返され、「入院医療中心から地域生活中心へ」と移行する「改革」がうたわれてはいるが、「失望の連続」、「その道筋が見えてこない」と訳者たちは感じていた。そんな訳者らはNSFを読み、そこに示された戦略や3年間で7億ポンド（1,400億円）もの追加投資、精神科専門医25%増、そして何より、史上最低の自殺率などの成果を5年の間に実際にあげていることを知ったとき、「まるで別世界」と「深い感銘を覚え」、「感動的ですらある」と感じ、翻訳を決意されたという。

本書では、1999年に示された7つの基準—①精神的健康の増進、②プライマリー精神保健ケア、③サービスの利用、④専門家によるケア、⑤病院と危機対応住居、⑥家族（carers）への支援、⑦自殺を防止する—と、それを裏づける財政、人的資源、研

究開発、情報および実施状況、臨床指針が取り上げられている。それぞれについて、「基準」、「背景」、「何を達成したか」、「さらなる対策を必要とする分野」、「積極的実践例」、「意見」などの見出しを立てて述べられている。最後には、それら全体を踏まえた評価と将来の方向性も示されている。

評者も、NSFをはじめとするイギリスの一連の医療改革から得られる示唆は大きいと感じ紹介してきた。日本の多くの医療関係者は、医療費を5年間で実質1.5倍に拡大していると聞いて驚く。だが、学ぶべきは、医療費拡大への国民からの支持をどのようにして取りつけたのか、という点だと思う。本書を読めば、その理由の一つが、NSFをはじめとする医療の質を高めるための戦略と、その進捗状況の評価と、その結果の国民への説明責任が果たされていることであると気づくであろう。精神保健関係者だけでなく、医療の質に関心をもつ多くの医療関係者に手に取っていただきたい報告書である。数値目標と言っても、医療費抑制の目標だけが示され、医療の質の目標は明示されない日本の状況と比較して、訳者たちと同様「まるで別世界」と驚いていただきたいからである。

〔B5 頁99 1,500円（税込み）2005 日本精神障害者リハビリテーション学会発行〕

本書の入手方法：送料と合わせて学会事務局にお申し込み下さい。

日本精神障害者リハビリテーション学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-23-13

特定非営利活動法人ストローク内

Tel 03-3362-4170 Fax 03-3362-9377